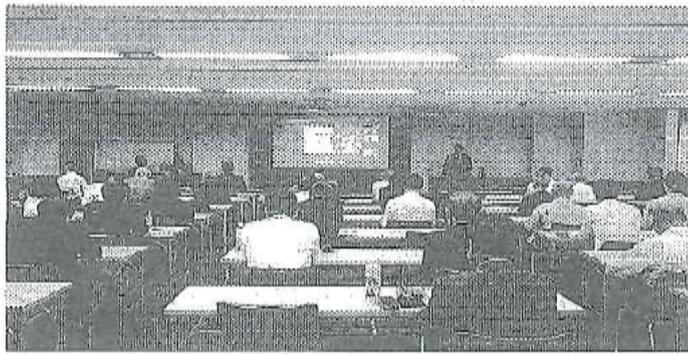


S Pの会と日測協

# 空間情報未来会議全国大会

## 人材育成や技術動向議論

### 選ばれる業界へ魅力づくり



10月31日に大阪市のCIV I研修センター新大阪東で開かれた「2024年空間情報未来会議(スパーシャリストの会全国大会)」(一部既報)のパネルディスカッションでは、ウェブ会議システムを使い、各支部の代表者が測量業界の人材育成や最新技術動向について意見を交わした。写真。

パネリストをスパーシャリストの会(S Pの会)副会長

の鶴飼尚弘氏、パネリストを東北支部の芝隆氏、東京支部の花上康一氏、中部支部の眞壁勝彦氏、北陸支部の徳田義孝氏、関西支部の加賀谷仁秀氏、中国・四国支部の荒木義則氏、九州支部の古川晃正氏が務めた。

眞壁氏は測量業界で今後求められる人材を語り、徳田氏はAI(人工知能)によって測量士の仕事がどのように変化するかの問題を提起した。

荒木氏はインフラDX(デジタルトランスフォーメーション)による仕事の変化、古川氏は地方が抱える人材確保と新技術活用を踏まえた事業継続の難しさ、芝氏は地方で活躍できる人材を説明した。花上氏は中小企業の業務領域拡大方法とM&A(企業の合併・買収)による事業承継を提案した。

加賀谷氏は労働力の供給が減少する時代に向けた測量業界の魅力づくりを説明し、「選ばれる業界にならないければならない。測量業界を多くの人に知ってもらう取り組みが必要だ」と語った。

意見交換では、測量業界への入職者を増やすために必要な取り組みについて、芝氏は「空間情報技術で豊かになれることをアピールしたい」、花上氏と眞壁氏は「SNS(交流サイト)での仕事内容の動画を配信することがはやっていける」、徳田氏は「学生らは土木の就職先として建設会社しか知らない。測量という職種の認知度を上げる必要がある」、荒木氏は「空間情報は生活に不可欠なものとなっている。防災教育などで伝えたい」、古川氏は「デジタルツインや3次元データはいまの子どもたちにとって身近なものが測量業界でも使えることを知ってほしい」と話した。

鶴飼氏は「魅力ある業界をつましく伝えることが大事だ。将来に備え、取り組むべきことをいまから準備してこい」と呼び掛け、締めくくった。